

喜びの受賞者

11日行われた第76回山陽新聞賞の贈呈式。文化功労6人、社会、教育、学術功労各1人の計9人と、奨励賞の文化、社会部門計2団体の代表者がそれぞれに歩みを振り返りながら、喜びやさらなる意欲を語った。(1面関連)

第76回 山陽新聞賞贈呈式



芸術の持つ力伝える

日本画家

井手 康人さん(55) 瀬戸内市牛窓町鹿忍

文化功労



1995年、倉敷芸術科学大に赴任し、岡山との縁が始まりました。指導者、支援者の顔が浮かび、身の引き締まる思いです。同大客員教授、愛知県立芸術大准教授などとして芸術の普及に携わっています。学校教育で芸術や文化は大切にされていますが、受験科目となるから科目とは位置づけに差があるように感じます。

芸術は、観察し、多様な見方を学ぶといった他の分野にも必要な生きる力を育んでくれます。日本画の研究に精進するのはもちろん、「芸術の持つ力を若い世代にどう伝えていくか」という教育にも力を入れています。

音楽に専心し恩返し

ピアニスト

岩崎 淑さん(80) 東京都目黒区(倉敷市出身)

文化功労

「音楽さえあれば大丈夫」。73年前、岡山空襲で全てを失ったときの父の言葉です。音楽教師だった父は私のために焼け野原からピアノを調達し、教えずから楽譜をもらってレッスンを再開。「本気でピアノをしよう」と決意した瞬間でした。

西洋音楽を究めるためには本場を知ることが欠かせない。私自身、東京や留学先などで暮らした環境で学ぶことができました。若手が海外で経験を積み手助けをするように、自身の演奏活動もできる限り続けたい。夢や目標は尽きません。生きていく限り音楽に専心し、皆さんに恩返しするつもりです。

彫琢で詩を輝かせる

詩人、岡山大名誉教授

岡 隆夫さん(79) =本名・古川 隆夫=

文化功労



言葉は面白い。一つの単語が新たな表現を生む面白さのめり込み、学生時代から半世紀以上、人生は詩と共にありました。日本の現代詩の中には、散文と見分けがつかないような作品が多くみられます。自分への戒めでもありますが、詩を輝かせるためには、定型のリズムと字句に磨きをかける彫琢の作業が不可欠だと思っています。

私の信条は「質と量は一致する」。多くの作品を書くことで独自の良さを発見できると信じています。今後も豊かな詩が紡げるように、言葉に想像力を加え、自分の世界を広げていきたいと思っています。

「触覚」備えた作品を

備前焼作家

金重 有邦さん(67) 備前市伊部

文化功労

近年の備前焼はデザインが評価される傾向にあります。そんな中、私は昔とあまり代わり映えしない、オーソドックスな焼き物を作ってきました。それだけに、伝統的な仕事に対するエネルギーをもちつたことで心強く感じています。

視覚と頭脳を使って鑑賞するヨーロッパのアートに対し、日本の工芸には手で触るとか、口を付けて飲むといった「触覚」という要素が加わります。そんな魅力まで兼ね備えた作品を残すことが、自分の大きな目標です。

いま一度、備前焼に託された期待を裏切らぬよう、一層努力を惜しまぬつもりです。

DV被害者守りたい

NPO法人・さんかくナビ理事長

貝原 己代子さん(73) 岡山市北区野田

社会功労

2004年にNPO法人を立ち上げ、ドメスティックバイオレンス(DV)被害者が駆け込めるシェルターを立ち上げるなど支援を続けてきました。今回の受賞の知らせに、かつて支援した被害者の母親から「お礼ができた気がする」と言われました。受賞を機にDVの実態が広く知られ、女性と子どもが守られる安心な社会づくりにつながってほしいと願っています。

今後の課題として、DVを受けた女性だけでなく、その子どもたちのサポートが挙げられます。心のケアや自立支援など、きめ細かなニーズに対応していきたいです。

筆持つ幸せ胸に努力

書家 小竹 石雲さん(68) =本名・康夫=

岡山市南区彦崎

文化功労



子どもの頃、左利きを右利きにするため、親が通わせた教室が書を始めました。きっかけです。実は嫌々でした。高校時代、読みやすい漢字かな交じりの「近代詩文書」の先駆けだった故三宅素峰先生と出会い、褒め上手な先生にうまく導かれ、書家を志しました。その後、会派を超えて集う岡山県書道連盟で研さんを積み、書の奥深さを知ることができました。

書家になり、ほぼ半世紀が過ぎましたが、今も時間があれば筆を持ちますし、持っている時間は幸せです。この思いを胸に、一層の責任感を持ち、努力を続けていきます。

実学重視し人材養成

岡山商科大学長

井尻 昭夫さん(73) 岡山市北区広瀬町

教育功労



学長として目指したのは、学生が30代、40代になった時、社会のリーダーになるための大学教育です。フィールドワークや経営者による講義を設け、実学を重視するとともに、個性を引き出す努力も続けました。岡山の地に税理士、公務員を多数輩出したほか、スポーツ面においても素晴らしい成果を挙げられています。また、力を注いだ国際化も誇れる点です。

今回の受賞で、私自身、目指す方向性は間違っていないなかと確信しています。今後も「入れて育て、磨いて送り出す」を基本に、優秀な人材の養成に取り組みたいです。

苦勞報われる面白さ

漆芸家

小松原 賢次さん(74) 倉敷市連島

文化功労

60年前、体操部の練習中に大げなをして車いす生活になりました。絶望的な気持ちになりましたが、縁あって漆芸と出会いました。漆芸は独創性がものを言う世界。苦勞するだけ報われる面白い世界でもありました。岡山は素晴らしい漆がとれますが、漆器の産地にはなりません。時絵の本場・石川県などで技法を習ったのですが、見よう見まねで身に付けていました。

今の私が得意とするのは、切り抜いた金の薄板を貼る平文や時絵です。今日を新たな出発点に頑張っています。

後楽園は世界的価値

元就実大、川崎医療福祉大教授

神原 邦男さん(80) 岡山市中区森下町

学術功労

岡山後楽園は、江戸時代に成熟した元禄文化を代表する日本文化遺産の一つ。私のベルサイユ宮殿と時期を同じくする庭園で、築庭時から明治時代までの記録も保有する、世界でもまれな価値を持つ大名庭園です。

1985年、就実女子大(現就実大)に史学科を開設して以来、約30年ゼミ生と後楽園を研究し、その素晴らしさを紹介してきました。県の築庭300年記念事業を契機に「岡山後楽園史」を編んで、天皇、皇后陛下をお迎えした能鑑賞に同席させていただいたことも励みになりました。今後も研究を深めていきたいです。

地域文化発展へ活動

ふくやま文学 福山市東深津町

代表 中山 茅集子さん(91)

奨励賞 文化部門



福山市内で刊行されてきた月刊同人誌が廃刊となり、新たな発表の場をつくること、1989年に発行した「ふくやま文学」を再発行し、今年30号を迎えます。

2009年、ふくやま文学館(同市丸之内)で、文学に音楽、絵画を融合させた企画展を開きました。約1カ月に千人を超える来場者があり、多くが初めて文学館を訪れたと知り、活動した地域文化発展のために活動していく大切さを感じました。

発足30年という節目の年の受賞を励みに、これからも発展させていきたいと思っています。

きれいな海残したい

山陽女子中学校・高等学校地歴部

部長 中原 舞子さん(16)

奨励賞 社会部門



2008年から浅口市寄島町の瀬戸内海で漁師さんの協力を得て海底ごみを回収しています。私は中学2年から関わり始めて、生活ごみなどが海底に大量にたまっていく実態に驚き、解決に向けて取り組んでいます。

最近はおみ回収に加えて啓発に力を入れています。地域の公民館で勉強会を重ね、博物館などで活動紹介の展示会を開いています。国連は海洋資源を含めた「持続可能な開発目標(SDGs)」の2030年までの達成を目指しています。受賞を励みに、私たちの子ども世代にきれいな海を残せるよう頑張りたいと思います。